

正会員○大谷 理子

(株)ジオスケープ 正会員 須田 清隆

(株)ジオスケープ 正会員 白樫 佳子

(株)ジオスケープ 正会員 丹治 真紀子

1) 調査目的

本研究の目的は、兵庫県淡路島での調査を例にとり、観光地を始めとしてその地にある名所などに対し、訪れた人が実際に感じる印象やその地の空間特性、またそれら実際の印象と一般的に伝達されている情報により人々が期待する印象との食い違いを、スケッチ調査を用いて、分析・評価することである。また同時に、分析結果から景観の好感度・印象度をより高める修景方法の効果を確認する事である。

2) 調査方法

淡路島各地から選出した8つの景観について感じた印象をスケッチする2種類の調査を実験的に行った。

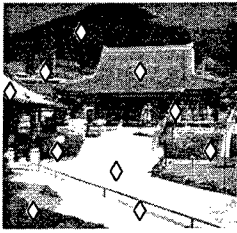
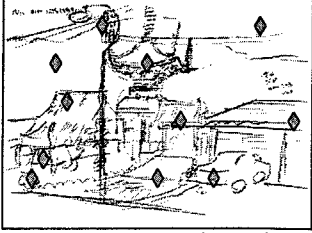
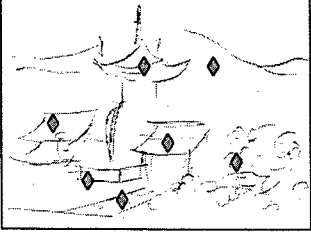
- ①実際スケッチ：その資産について、気になる・印象的・好き嫌い等の理由で、描きたい景観を自由に描く。時間は10分～15分程度。
- ②修景スケッチ：①のスケッチと同じ景観を、より良く・自分の希望を含めて修景した景観を描く。

3) 調査対象 下記の8景観について行った。また、その性質と分析の上で3つに分類した。

資産名	所在地	概要	分類
伊弉諾神宮	一宮町	国生み神話縁のイザナギ神を祀る淡路が誇る幽宮	神社・仏閣
絵島	淡路町	古来より歌に読まれおのころ島伝説もある一大景勝地	景勝地
貴船神社遺跡	北淡町	海人の製塩遺跡が発掘され公園も隣接する海沿の神社	神社・仏閣
五色浜	五色町	五色の砂利による砂浜が美しく海水浴場としても有名	景勝地
多賀の浜海水浴場	一宮町	施設が充実しており広い海浜公園と隣接するスポット	レジャー・公園
県立淡路香りの公園	一宮町	一宮町で盛んな線香産業にあやかったハーブ植物園	レジャー・公園
松帆神社	東浦町	楠木正成を祀る神社。名刀「菊一文字」と秋祭りで有名	神社・仏閣
八淨寺	津名町	淡路七福神巡り第1番札所。大黒天を祀る海際の寺	神社・仏閣

4) スケッチ分析結果

①ある景観の情報として最も一般的に使われているアングルの写真イメージ、②実際スケッチ、③修景スケッチのそれぞれを構成する要素を抽出し、比較検証する。(○比較検証例：八淨寺 *◇◇＝抽出した要素)

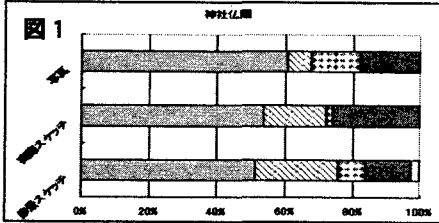
写真イメージ	実際スケッチ	修景スケッチ	
			仏塔が特徴的である。電線・街灯・土産屋等の印象が軽減されるもの、と捉える傾向がある。
◇背景山・境内・本堂・住宅 柵・ベンチ・植栽・案内板 薬師堂・のぼり	◇背景山・参門への道・土産屋・ 駐車場・車・街灯・植栽・白 壁・参門・本堂・仏塔・電線	◇参門への道・木々・白壁・参 門・本堂・仏塔・背景山	

Riko OTANI、Kiyotaka SUDA、Yoshiko SHIRAKASHI、Makiko TANJI

○ 分類別の要素集計結果と分析: 各対象を性質別に分類し、それぞれの空間構成要素の特徴を分析する。

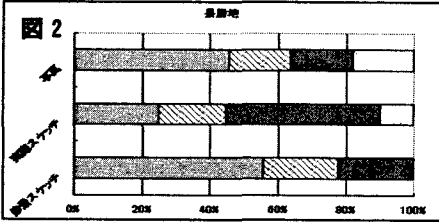
対象物とその関連部	自然物	施設・設備	対象物以外の人工物	動く要素(人・動物・車・船)
-----------	-----	-------	-----------	----------------

■神社仏閣 (図1)



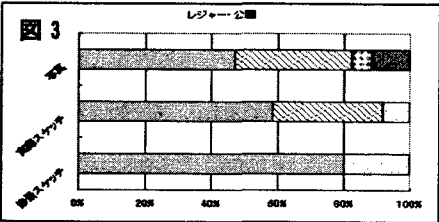
- ・対象物である寺社建築とその付属物(灯籠、境内、鳥居等)の占める割合が安定して高く、人々の視点はそれらに集中している。
- ・神社仏閣において主役要素の整備には常に注意すべきであり、逆に主役要素以外に視線を向けるには工夫が必要である。
- ・修景スケッチに表れているように、掲揚塔・柵・電線・案内板等の設備は景観を阻害しない設置の仕方が望まれる。

■景勝地 (図2)



- ・景勝地の場合、美しい景観への期待が強いため、実際に感じる印象との差が顕著に出る。
- ・修景の際は、主役の対象物と周辺の自然物の要素を多く、同時に人工物でも、駐車場やトイレ等のより快適な滞在ができるための要素は、景観を阻害しないように設置されることが望まれる。

■レジャー/公園 (図3)



- ・レジャー/公園は対象物、自然物、賑わい、施設など各要素が一体となった景観であり、その期待感が修景スケッチに表れている。
- ・神社仏閣、景勝地のように物理的に見えるものが景観への印象を左右するものと違い、レジャー/公園施設は人々が集い、賑わって楽しい「雰囲気」が景観の良し悪しを大きく左右すると言える。

5) 修景検討 現状・印象調査を元に重要な要素を抽出し修景ポイントを明らかにする。

例: 絵島	与えたい印象	実際に受ける印象	希望する印象→修景
	見せたい対象物のみを切り取った画像情報		
		1. 釣人の侵入 2. 後付の階段 3. 背景の建築物とコンクリート護岸 4. 景勝地の雰囲気を壊す絵入の護岸	1. 背景に溶け込む植栽 2. 天然石を利用した護岸 3. 風景の一部として掛橋を強調 4. 視野を広げる空間

6) 考察

今回の調査において、パンフレット等に紹介されている観光地情報により来訪者が期待する景観印象と、実際に感じた印象には差があることが確認できた。このことから、観光地等の修景方法の決定には、各景観の性質、来訪者が実際に抱く印象、更に来訪者が望む印象の把握にスケッチ調査の有効性も確認できた。

7) 今後の課題

スケッチ調査においては、景観要素の抽出のみでなく、認知範囲や角度も含めた詳細な分析方法、修景への活用方法等も加え、景観評価の有効な手法としてより実効性を高めていきたいと考えている。また、観光地の印象度を高め地域の活性化へつなげるには、スケッチ調査を景観分析手法として活用するだけでなく、地元と周辺の人々の地域資源に対する意識・認知を喚起することも必要になると考える。